



名村 嘉洋 議員

YOSHIHIRO NAMURA



2023年度 施政方針
主要施策の概要から

問 各公共交通機関の運行に当たっては、利用動向を分析し、運行改善と利用啓発に努め、利用促進を図るとあるが、具体的な取組みについて伺う。

答 本市公共交通は、南北に長い市域を結ぶ幹線としてコミュニティバスを運行するとともに、その支線として市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」を市内全域で運行している。定期的にアンケート調査やヒヤリング調査、移動状況調査を実施する等、利用者の動向を分析し、乗車密度が高い時間帯の便について、分散乗車を図るためのダイヤ改正を実施するなど、サービス改善に取り組んできた。今後も利用状況に応じたダイヤ改正の実施やバスの待合環境の改善等、利用環境の向上に努める。

市民乗り合いタクシーにおいては、新たに開業される民間施設にお願いし、乗降場所となる目的を増やしていくなど、利便性向上に取り組む。

問 こども家庭センター設置に向けて、児童福祉と母子保健との一体的な相談支援体制整備の準備を進めるために、この一年でどのような支援体制を整えるのか。

答 令和6年度の、こども家庭センターの設置に向け、子育て支援センター「すくすく」と母子健康支援センター「はつらつ」の相談記録等の情報を共有するためのシステムを導入する。また、新たな組織の体制整備が必要になることから、センター長や統括支援員等の配置、子ども家庭支援員や保健師等の専門職が一体的に支援に取組める体制の構築に向け検討していく。

その他の質問事項

- たつのこどもエコクラブ事業について
- 学校部活動について
- 観光誘客と観光振興の具体策について
- マイナンバーカード申請サポートカー整備について



三木 浩一 議員

KOICHI MIKI



観光施策について

問 来年度本市において開催される「全国京都会議」を機会に積極的な観光施策はないのか。

答 加入自治体が広域観光キャンペーンを実施したり、共同宣伝パンフレットやポスター・ホームページの作成等をしている。活性化の具体案を提起する場はないが、講演会をはじめ写真展や地場産品などをアピールする場とした。また、マスコミなどにも積極的に呼びかけていきたい。
小中一貫校と安心・安全な教育環境について

問 新宮校区の小中一貫校の設計において、バリアフリー・避難所機能・太陽光発電など多様な観点で行っているのか。また、特別支援教育支援員やスクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセ

ラー(SSC)の増員はいつなっているのか。
答 基本計画においては、必要な普通教室・特別教室はもちろん、多目的室や交流スペース・ふるさと学習室などの整備も考えている。バリアフリー化・避難所機能・太陽光発電・緊急時の放送、電話の導入も大切なコンセプトとして盛り込み具体化していく。
支援員等については、本年度、特別教育支援員19名、介助員7名を配置している。来年度は支援員を2名増員する。SCは中学校5名、小学校3名、SSWは5名配置し、全ての小中学校の児童生徒に対応できる体制を整備している。教育相談員も1名増員し組織的に支援していきたい。
少子化対策について
問 本市における少子化対策で特徴的なものはあるのか。
答 妊娠・出産・育児に係る伴走型相談支援や子育て応援金の給付、児童福祉と母子保健との一体的な支援体制、経済的支援など子どもを生き育てやすい環境づくりを進めていきたい。

Q&A

観光施策と教育環境について